

カシオ創造憲章

当社は2003年6月、経営理念を明確にし、企業文化と企業風土の醸成を図るため「カシオ創造憲章」を制定。以下の3つを基本とし、社員一人ひとりが実践していくための各種規程を定めています。

●第1章
私たちは、独創性を大切に、普遍性のある必要を創造します。

●第2章
私たちは、社会に役立ち、人々に喜びと感動を提供します。

●第3章
私たちは、プロフェッショナルとして、常に誠実で責任ある言動を貫きます。

CONTENTS

ごあいさつ	1
業績ハイライト(連結)	2
通期の業績見通し/重点施策	3
部門別の概況(連結)	5
当中間期の事業活動	7
新商品開発ストーリー	9
環境保全活動	11
主要財務指標(連結)	13
要約財務諸表(連結)	13
主要財務指標(単独)	15
要約財務諸表(単独)	15
株式情報	17
会社概要/主要製品/役員	18
株主メモ	裏表紙

ごあいさつ

株主の皆様へ。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2003年度中間期(2003年4月1日～2003年9月30日)の事業概況についてご報告申し上げます。

取締役社長

梶尾和雄



業績および全般概況について

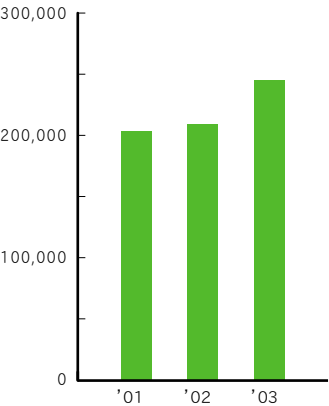
当中間期における日本経済は、株式市場の回復や企業業績の改善など、回復の兆しを見せておりますが、公共投資は減少傾向にあり、個人消費は引き続き低迷を続けるなど本格的な景気回復の展望が見えないまま推移してまいりました。一方、海外においては、米国経済こそ個人消費の拡大により回復しつつありますが、欧州・アジア経済は輸出の伸びが鈍化するなど低調に推移し、総じて厳しい景気後退局面が続きました。当社関連市場につきましては、ビジネスのグローバル化に伴う価格競争の激化など一段と厳しい状況ではありましたが、デジタルカメラ市場の伸長やパソコンの需要回復など市場全体は回復傾向で推移いたしました。このような環境のもと、当社は経営目標の達成に向け、時計、デジタルカメラ、電子辞書、携帯電話、TFT液晶といった戦略事業を強力に推進・展開するとともに、資本効率の向上、固定費の抜本的削減など経営効率化に一層の注力を図ってまいりました。その結果、当中間期の連結売上高は、戦略事業が好調に推移し、前年同期比14.7%増の2,405億円となりました。また、経常利益は前年同期比44.7%増の84億円、中間純利益は前年同期比115.5%増の50億円となりました。

業績ハイライト(連結)

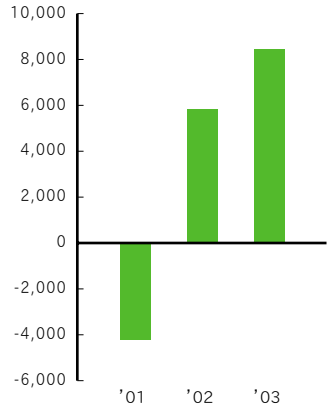
業績ハイライト(中間期)

科 目	2003年度	2002年度	2001年度
売上高(百万円)	240,578	209,790	204,015
経常利益(百万円)	8,429	5,827	4,211
中間純利益(百万円)	5,027	2,333	4,209
1株当たり中間純利益(円)	18.64	8.63	15.50

売上高(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)



中間純利益(単位:百万円)

